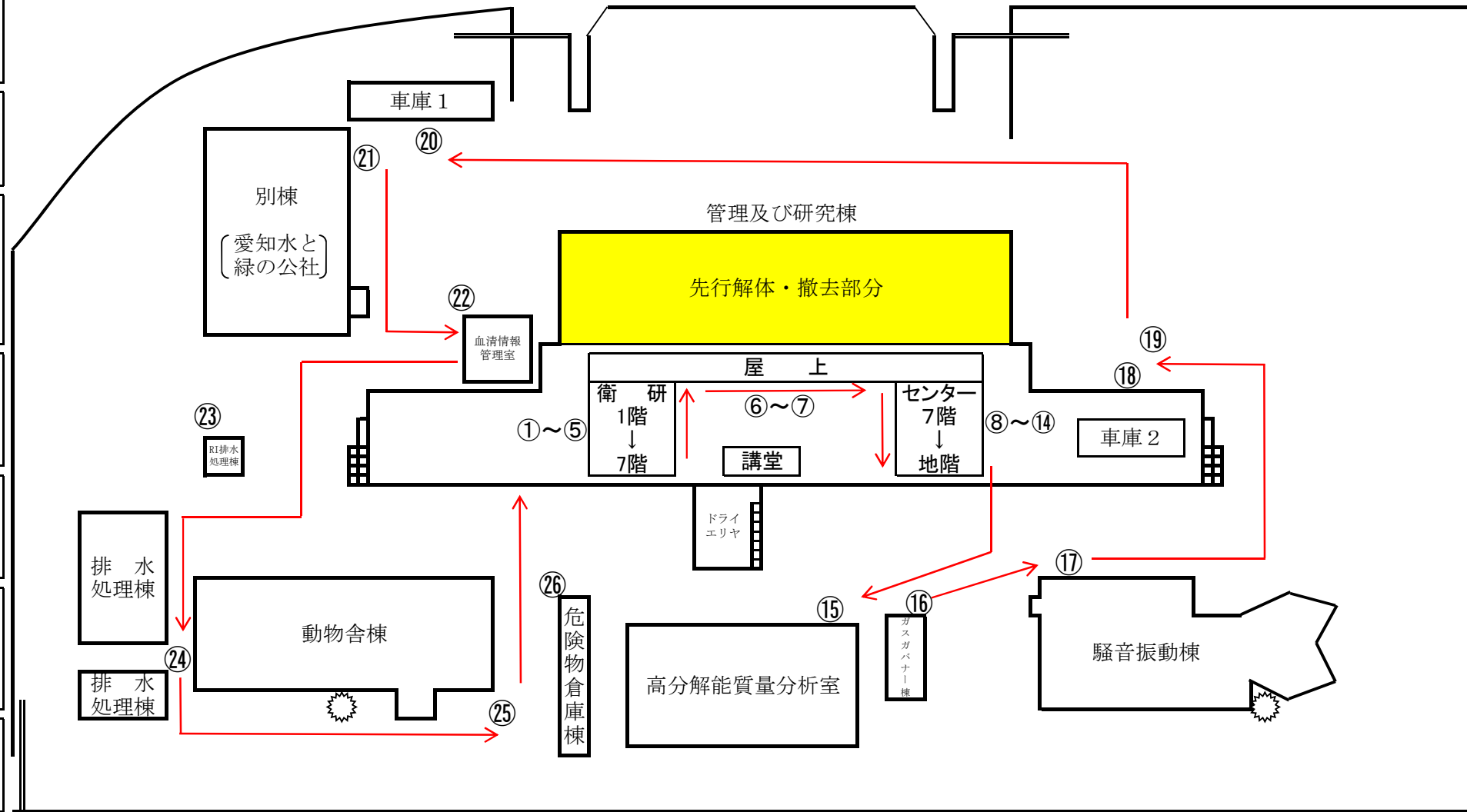


愛知県環境調査センター・愛知県衛生研究案内図（現地見学会用）

- ⑳車庫 1
 - ・(公財)愛知水と緑の公社が県から行政財産の使用許可を受け、車庫として使用している。
 - ・解体・撤去する建物である。
- ㉑別棟
 - ・(公財)愛知水と緑の公社が県から行政財産の使用許可を受け、事務室として使用している。
 - ・存続する建物である。
- ㉒血清情報管理室
 - ・流行予測調査で収集された血清等を超低温槽内に長期保存している。
 - ・15～25℃の温度管理が必要。
 - ・解体撤去する建物である。
 - ・先行解体するため仮設棟に移転する建物である。
- ㉓RI排水処理棟
 - ・放射性物質検査の際に出る廃液を処理した施設。
 - ・現在は使用していない。
 - ・解体撤去する建物である。
- ㉔排水処理棟
 - ・実験系の排水を処理して、下水に放流している(生活系の排水は、直接下水に放流)
 - ・建替える建物である。
- ㉕動物舎棟
 - ・試験を実施するためのウサギ、マウス、ニトリ、ガチョウ等を飼育している。
 - ・25℃の温度管理が必要。
 - ・存続する建物である。
- ㉖危険物倉庫棟
 - ・1類から6類までの危険物を保管している建物。
 - ・存続する建物である。



- ㉑駐車場
 - ・現在、来客用及び職員用として、約60台分設置している。
 - ・工事期間中の駐車場の確保が必要。
 - ・新本館・研究棟の建設位置である。
- ㉒車庫 2
 - ・現在、乗用車3台が車庫内に、特種車3台が屋外に駐車している。
 - ・特種車については、200Vの電源が必要であり、本年中には騒音振動棟南側に仮移設する予定である。
- ㉑騒音振動棟
 - ・航空機、新幹線などの現場で測定した騒音・振動データを解析する施設。
 - ・存続する施設である。
- ㉒ガスガバナー棟
 - ・都市ガス供給者から供給されるガスを調圧する施設。
 - ・現在、都市ガス供給者が県から行政財産の使用許可を受け、使用している。
 - ・存続する施設である。
- ㉑高分解能質量分析室
 - ・ダイオキシン等の分析を行う部屋で、常時、陰圧にする必要がある。
 - ・存続する建物である。

- ㉑スクラパー
 - ・ドラフトの一部は一般的な有機溶剤の他、酸にも対応する必要がある。この建物で実施する分析項目には試薬成分の誘導体等も含まれており、検査精度の確保には十分な換気能力を持つことが不可欠である。
 - ・スクラパーは、環境調査センターと衛生研究所で4基(各2基)あり、それぞれ各階の実験室のドラフトが2系統、計4系統ある。このスクラパーに接続しているドラフトは系統別に「センター側 18台(東)、12台(西)」、「衛生研側 7台(東)、15台(西)」
- ㉑放射能試料採取器等
 - ・空間放射線量率を測定するモニタリングポストを設置している。
 - ・大気浮遊じんや降下物等の試料を採取する機器を設置している。
 - ・他に、中部地方環境事務所が県から行政財産の使用許可を受け、花粉観測システム機器を設置している。
- ㉑細菌研究室
 - ・感染症や食中毒等の健康危機管理事例を含む病原菌の検査を行っている。
 - ・病原菌検査はBiosafety Level (BSL) 2若しくはBSL 3(前室+陰圧)施設で実施している。18～25℃の温度管理が必要。
 - ・他研究室にも同様の施設がある。
- ㉑低温実験室
 - ・低温で温度管理が必要な実験を行うための部屋。4～10℃の温度管理が必要である。現在は6℃で管理。
- ㉑LC-MS室
 - ・液体クロマトグラフ/タンデム質量分析計(LC-MS/MS)のための機器分析室。
 - ・測定精度を維持するため、個別空調により20～25℃の温度管理が必要。
- ㉑企画情報部
 - ・健康事象に関する疫学研究及び感染症情報などの各種公衆衛生情報の収集、解析、情報発信を行っている。
 - ・衛生研究所内システムのサーバ管理、コンピュータ室のため、温度・湿度・空気清浄度の管理が必要となる。
 - ・現施設は、先行解体・撤去部分にあるため、新施設完成までの間、仮移転する必要がある。
- ㉑共同研究室
 - ・ウイルス観察のための透過型電子顕微鏡が設置されている。18～25℃の温度管理が必要。天井高の確保が必要となる。
 - ・使用時は工事の振動の影響の配慮が必要。
 - ・ゲルマニウム半導体検出器が設置されており、測定精度を維持するため、個別空調により常時23℃前後での温度管理が必要。

- ㉑恒温室、水質第5実験室
 - ・恒温室は、BODの分析に必要な試薬及び検体を保管するための部屋で、常時20℃に保たれている。検体は20℃で5日間の養生が必要。
 - ・実験室は、大量のガラス器具等が使用されるので、転倒等の安全対策等が必要。(各階の実験室共通)
- ㉑GC-MS室
 - ・小部屋で温度管理を行い、機器分析を行う。
 - ・水圏部の各分析室には、それぞれ用途に応じた各種分析機器がある。(他の階にも同様に小部屋がある。)
- ㉑大気第2実験室
 - ・大気中の微量物質を測定するためガスクロマトグラフ分析装置を使用しているが、分析に必要なガスポンペを保管している。
 - ・窒素、ヘリウム、圧縮空気は屋内保管、爆発の恐れのある水素ガスは、屋外(ベランダ)保管(各階のガスクロマトグラフ分析装置を使用する実験室共通)
- ㉑図書室
 - ・センター及び衛生研の図書を閲覧に供している。
 - ・現在の蔵書数は、環境調査センター分が約6,500冊、衛生研究所分が約4,000冊であるが、他の部屋にも蔵書があるので、今後、増加する可能性がある。
 - ・現施設は、先行解体・撤去部分にあるため、新施設完成までの間、仮移転する必要がある。
- ㉑データ処理室
 - ・大気、水質などの環境データ、各種気象データなどを収集し、データ解析を行っている。
 - ・コンピューター室のため、空調、温度管理が重要となる。年中25℃で管理している。(サーバーが熱を出すため)
- ㉑放射能測定室
 - ・屋上の放射能試料採取器で採取した大気浮遊じんや降下物等の試料中のガンマ線放出核種を測定するゲルマニウム半導体検出器を使用して測定している。
 - ・ゲルマニウム半導体検出器は、約2トンの重量があり、床の補強が必要である。
 - ・現施設は、先行解体・撤去部分にあるため、新施設完成までの間、仮移転する必要がある。
- ㉑機械室 (※隣:ドライエリア)
 - ・環境調査センター、衛生研究所の電気、空調、給排水を行うための機械室。
 - ・コントロール室、ボイラー室(ガスボイラー2基)、空調機械室、トランス室、発電室(非常用)等がある。
 - ・電気、給排水については、本館以外に、外部棟(騒音振動棟、高分解能質量分析室、動物舎棟、排水処理棟、別棟など)にもつながっている。
 - ・機械室の地上上部は、新本館・研究棟の建設地と重なっている。新本館・研究棟の完成まで機械室を存続し、使用する。
 - ・ドライエリアは埋め戻しをして外構整備します。